

妙法華寺便り

令和5年10月号

◇ 行事報告 ◇

9月18日（月）摩利支天月例祭

秋季彼岸法要の飾り付けの中、本堂で読誦会が執行いたしました。式典後は総代世話人の方には幟を立て、本堂や山門には幕を張って頂きました。婦人会の方には施餓鬼菓子の準備をして頂きました。ありがとうございました。



さて、今回は「お彼岸」という言葉の由来についてのお話です。

彼岸という言葉は、サンスクリット語の「パーラミター（波羅蜜多）」の漢訳「到彼岸」を略した言葉であると言われています。サンスクリット語の「パーラミター」とは本来は「完成する」、「成就する」といった意味が含まれている言葉です。その「完成する」といった意味が転じて、仏道の様々な修行において「達成されるべきもの」という意味合いを示すようになりました。般若心経の「般若波羅蜜多」は悟りの境地に達すること、またはそのために積むべき修行という意味を持つ言葉なのです。悟りの境地に達することが、仏教における「パーラミター」です。

この思想がやがて、我々日本人古来の風習や自然観、そしてご先祖様を崇拝するという習慣と結びついていくことで、「此岸」という我々の住む世界を表す言葉と、「彼岸」という仏様の世界、すなわち悟りの境地に達した世界を表す言葉が生まれました。



春分の日と秋分の日是我々の世界である此岸と、仏様の世界である彼岸が、最も近く通じやすくなる日であると理解されるようになりました。この日に、ご先祖様の供養の法要を行えば、ご先祖様への思いも最も通じやすくなるのではないかと思います。この思想が生まれ、お彼岸にはご先祖様の供養のためにお墓参りをするという行事が定着していったようです。

9月20日（水）秋季彼岸・施餓鬼会

午後1時より、庭瀬組寺のお上人方と共に秋季彼岸法要（施餓鬼会）を執行いたしました。



檀信徒の皆様より申し込まれた塔婆に水向けを行い、香を焚き、お経を唱え、ご供養いたしました。皆様ありがとうございました。

また、当日のお世話・ご接待、準備、片付けをして頂きました総代世話人をはじめお手伝いいただきました方々に感謝申し上げます。

◇ 行事案内 ◇

摩利支天月例祭

11月18日（土）・12月18日（月）

午前10時より執行いたします。

お会式法要

11月18日（土）お逮夜・翌19日（日）に執行いたします。

18日は午後6時より、19日は、午前10時より一座目、午後2時30分より最終座を始めさせていただきますので、どうぞお参りください。（19日の一座目と最終座の間は随時）

なお、マスク着用は各自の判断にお任せいたします。

妙法華寺便り9月号でもご案内させていただいておりました「御浄財」を宜しくお願いいたします。また、お寺から直接案内させて頂く檀家の方には、振り込み用紙を同封させて頂いておりますので、宜しくお願いいたします。

◆ 戸守経のご案内 ◆

11月に入りましたら、近郊のお檀家の方には、年末の「戸守の御経」の連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。また、新年を迎えるにあたり、台所・トイレ等の紙札を希望される方は、お寺までご連絡下さい。

今年もお地藏様の赤い服が、富山直子さんのご供養により、新調されました。ありがとうございました。

